

(市指定無形民俗文化財)

たかもり  
高杜神社

赤岩の太々神楽 (赤岩区)



赤岩区で、毎年10月7日の宵宮祭に続き8日に行われる例大祭。このクライマックスに高杜神社の中社で行われる太々神楽は、明治31年(1898)に飯山の「五束の大宮(健御名方富命彦神社)」から教わったものといわれています。

舞は、「禊の舞」(みそぎのまい)、龍田の舞(りゅうでんのまい)、「鈴神楽」(すずかぐら)、「四弓殿」(しきゅうでん)、「二柱」(ふたはしら)、「大和遊(千代の舞)」(やまとあそび(ちよりのまい))、「四方三礼」(しほうさんらい)「神楽舞」(かぐらまい)、「岩戸開き」(いわどひらき)、「恵比寿」(えびす)、「流殿」(りゅうでん)の11種類あり、全ての舞を通すと3時間ほどかかります。

また、「岩戸開き」では、天細女命(あめのうすめのみこと)が舞った後、天手力男神(あまのたぢからおのみこと)が登場し、岩戸を持ち去ることで天照大神(あまてらすおおかみ)が岩戸の中から現れ、供え物を供えることができるようになるなど、戸隠に伝わる岩戸伝説に通じる要素も含んでいます。地域の篤い信仰心に支えられ、小学生の男女、中学生の男女や青年たちが烏帽子・冠・水干・袴をつけて舞う姿は、見る者全てに優雅さと勇ましさを感じさせます。



#### 神社 DATA

神社名  
高杜神社

住所

- ①奥社：赤岩 198 番地
- ②中社：赤岩 355 番地
- ③里宮：赤岩 1552 番地

小さいころから自分も舞い手などとして参加してきた祭りなので、地域の皆さんの協力のおかげで、今年も無事に開催できたことにまず感謝したいです。

赤岩地区の例祭は、小学生



【氏子総代長】

さとう えいいち  
佐藤 栄一さん

地域の祭りを変わることなく受け継いでいきたい

のころから太々神楽を舞ったり、その年の干支の人が山車に乗ったりと直接参加する機会が多く、地域の人が全員が祭りの内容が分かるということがとても大きいことだと思っています。また、祭りを通し、「地域のひとと縦と横のつながり」が増えることが祭りの良いところだと思っています。

宵宮の花灯籠から、次の日の山車や太々神楽まで見所がたくさんあり、歴史あるお祭りなので、このまま変わることなく受け継いでいってほしいです。



1



2



3

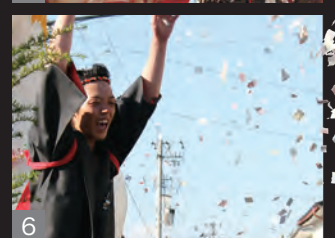
①中社の雰囲気と相まって荘厳さを感じる禊の舞。②天手力男神が閉ざされていた岩戸を運び去る、迫力ある岩戸開きの舞。③中学生の女子が舞い、見る者を魅了する二柱の舞。



4



5



6

④宵宮では、八つの花灯籠が集落内を練り歩き里宮へ奉納され、沿道の人は華やかな花灯籠の行列を楽しむ。⑤、⑥例大祭では、山車引きの奉納行列からさまざまな物がまかれ、沿道は待ち構えた人と紙吹雪で溢れ返る。





(市指定無形民俗文化財)  
新野神社  
新野の式三番叟  
(新野・高遠区)



①左が尉（黒尉）右が千歳。②翁の荘厳な動作は、ほとんどすり足で腰をかがめがちで舞う。③尉の踏込の舞。④式三番叟の後、奉納される獅子舞は、舞の特徴が違う新野区と⑤高遠区を順番に見ることができる。

新野の式三番叟は、明治に入ってから東京より伝えられたなどといわれていますが、囃子方や舞い方などは古いものを正式に伝えており大変貴重です。その音曲は、謡と小鼓・大鼓・笛の楽器に合わせた能の要素からなっており、中山晋平は、小学生のころに式三番叟の難しい笛の座を務めていたといわれています。

ここへ出てくる演技者は、翁・千歳・尉（黒尉）といわれる者で、この三

部の歌舞は、天下泰平・国土安穏・五穀豊穡を祝祷するものであります。

翁は白い髭を生やした面をかぶり、神霊を舞台に迎えるため、荘厳な動作で舞います。それに前後して、露払いの役目をする千歳が舞い、最後に尉が出てきて千歳と掛け合いを行います。尉はその後しばらく舞い、黒い面を着け鈴の段を舞って終えますが、この時の舞が大変活発であり、滑稽味を帯びていて見る者を引き込みます。



(データ)  
神社 DATA

神社名：新野神社  
住所：新野 497 番地

まず、災害などがあればお祭りは開催できないので、この地域に災害がなく無事にお祭りを開催できたことをうれしく思います。

新野神社の例祭では、打ち上げ花火や育成会の出し物、くじ引きなど多くの催し物を行っています。年々工夫することを大切に、多くの皆さんに参加していただき「祭りに来たことで多くのの方に福が届くこと」を心掛けています。また、見物者が増えることが、式三番叟や地区の獅子舞など、舞い手の方のやる気にもつながっていくと思います。

今後も、神社の氏子として災害のない地域であることを願うとともに、神社を中心にお手伝いをしながら、祭りに参加していきたいです。



【氏子総代長】  
いけだ ひろひさ  
池田 浩久さん

祭りの開催を喜び、  
年々工夫していきたい